

日本福祉介護情報学会ニュース 2016 年度第 3 号

2017 年 2 月 1 日

発行：日本福祉介護情報学会（<http://jissi.jp>）
埼玉県新座市北野 1-2-26
立教大学コミュニティ福祉学部
飯村研究室内 info@jissi.jp

【目次】

1.	第 17 回研究大会報告	1
2.	総会報告・第 18 回研究大会案内	2
3.	「個人情報の活用と保護に関する専門部会」中間報告	3
4.	学会紀要について	3
5.	ホームページの改善について	4
6.	事務局から	4

1. 第 17 回研究大会報告

日本福祉介護情報学会理事・第 17 回研究大会事務局
筒井 孝子（兵庫県立大学大学院経営研究科）

日本福祉介護情報学会第 17 回研究大会は、2016 年 12 月 10 日（土）に兵庫県立大学神戸商科キャンパス（兵庫県神戸市西区）において「介護・福祉分野におけるイノベーションの創出にむけた情報活用」をテーマとして開催されました。

午前中は 10 題の自由研究発表が行われ、午後のプログラムでは、開催校である兵庫県立大学経営研究科と共催し、2 部構成の講演・シンポジウムが実施されました。こうした充実したプログラムの企画によって、開催校の関係者等、学会員以外の方の多くの参加があり、今年は昨年より大幅に多い 122 名の方に、研究大会に参加していただくことができました。

第 1 部では、国がすすめてきた社会福祉法人の財政規律の健全化に伴う監査の義務化に関連した「会計専門職業人育成の課題」をテーマとしたシンポジウムが実施されました。このシンポジウムでは、今後、社会福祉法人における財務に関わる情報の透明性を、いかに担保するかといったことについての討議がなされました。

次いで、第 2 部では、「介護・医療、福祉分野におけるイノベーションの創出」をテーマとして講演・シンポジウムが実施されました。始めに、元厚生労働省雇用均等・児童家庭局長香取照幸氏より、「厚生行政におけるイノベーションの創出のための戦略」と題した基調講演をいただき、長年にわたる厚生労働行政のご経験を基に、社会保障の仕組みを継続するために必要とされていることについての貴重なお話いただきました。

続いて、この基調講演を踏まえて、介護・医療や福祉分野のサービスは労働集約性が高い分野におけるイノベーションの創出を具体的に考えるために、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」をテーマとしたシンポジウムが行われました。このシンポジウムでは、まずキャリア段位制度の運営に携わる担当者や、介護人材の学識者・実践家をお迎えし、それぞれの方からの報告をいた

だいた後、その内容を基にしたパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、「人がそこそこ定着し、それなりにやりがいをもって働いている職場づくりが大切。キャリア段位制度は、その実現ツールとして機能していくことになる。」といった意見や「キャリア段位制度を活用したOJT体制とクリニカルガバナンスの推進が必要」といった意見も出され、介護キャリア段位制度で扱われている膨大な情報、いわゆるビッグデータの有用性とその利活用等に関して、活発な話し合いが行われました。

2. 総会報告・第18回研究大会案内

日本福祉介護情報学会理事・第18回研究大会事務局
飯村 史恵 (立教大学)

2016年12月10日(土)の第17回日本福祉介護情報学会において会員総会が開催され、下記の議案について協議し、承認されましたので報告いたします。

《報告事項》

- (1) 学会の運営について
- (2) 会員加入状況 (2016年12月10日現在)
117名 (個人会員:102名 学生会員:14名 名誉会員:1名)
- (3) 研究紀要『福祉情報研究13号』『福祉情報研究14号』の発行並びに投稿規定の整備について
- (4) 個人情報 の活用と保護に関する専門部会報告
- (5) 「キャリア段位制に関する学習会」の報告並びに研究活動の活発化
- (6) 日本社会福祉系学会連合への加入について

《審議事項》

- (1) 2015年度事業報告・決算
- (2) 2016年度事業計画(案)・予算(案)

《その他》

- (1) 岡本民夫名誉会員の叙勲について
- (2) 2017年度研究大会の開催について
- (3) 住所等変更届の提出のお願い

なお、当日も報告いたしましたが、次回第18回の研究大会は、立教大学において開催することが決定いたしました。

参加される皆さまの交通の利便性等を鑑み、池袋キャンパスでの開催を検討したいと思っております。また、大会テーマや具体的な内容につきましても、時を得た会員の皆さまのご意見・ご要望を可能な限り反映できる内容にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 「個人情報の活用と保護に関する専門部会」中間報告

日本福祉介護情報学会理事・個人情報の活用と保護に関する専門部会
前田 みゆき（株式会社日立製作所）

「個人情報の活用と保護に関する専門部会」の中間報告を2016年度の研究大会にて行ないました。報告内容は以下の通りです。

(1) 昨年9月に成立した「改正個人情報保護法（以下：改正法）」では、小規模事業者も個人情報取扱事業者になることから、福祉・介護の現場への影響が大きい。そこで、個人情報活用・保護部会（以下：部会）を設置し、検討を行なっている。

(2) スケジュールは、①「現場の課題調査」（～9月）、②「解決策の検討」（～11月）、③「学会において可能な解決策の実施」（～3月）で、今回の中間報告は、①「現場の課題調査」、②「課題の解決策の検討」の部分である。

(3) まず、①「現場の課題調査」では、村井氏の「個人情報の活用と保護」の講習会アンケート分析、及び9/4のワークショップを通して、課題を以下の3点に集約した。

(a) 個人情報保護の適切な理解がなされていない（活用の効果含む）

(b) 第三者提供を中心に、法律やガイドラインの解釈が現場任せになっている

(c) 個人情報のトレーサビリティ等の負荷が大きく、業務が回らない

(4) 次に、②「課題の解決策の検討」では、9/4のワークショップ、及び部会メンバーとのメールによるディスカッションを通して(a)～(c)の課題ごとに解決策を検討した。

(A) 個人情報保護法の改正内容を周知し、新たに何をしなければならないかを発信する

(B) 関係省庁にコメントを出して公式な回答を得る等、解釈を明確にする

(C) 個人情報のトレーサビリティの確保に向けた手法等、業務が回る個人情報の保護と活用方法を検討し、検討結果を発信する。

(5) さらに、③「学会において可能な解決策の実施」も一部実行しており、11月2日締め切りの「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編、外国にある第三者への提供編、第三者提供時の確認・記録義務編及び匿名加工情報編）（案）」に関する意見募集に、専門部会としてコメントを投稿した。

(6) 今後も引き続き、③「学会において可能な解決策の実施」を推進するとともに、パブコメの回答等を報告書にまとめ、講演や雑誌等で情報発信を行っていく。

4. 学会紀要について

日本福祉介護情報学会理事・学会誌編集委員会
(立教大学) 飯村 史恵

現在、紀要第13号の編集作業を進めており、皆さまのお手元には、3月頃にお届けできる運びとなっております。また、第14号につきましては、例年1月末日を投稿論文の締切日としておりましたが、2月20日（消印有効）に延期して、引き続き原稿を募集中です。なお、投稿規定につきましては、12月の総会でご案内の通り、一部を改定しておりますので、ホームページでご確認の上、皆さまからの投稿を心よりお待ちしております。

5. ホームページの改善について

日本福祉介護情報学会理事・ホームページ委員会
村井 祐一（田園調布学園大学）

これまでホームページの各メニュー内に「終了」、「新着」など、文字での情報が記載されていましたが、アイコンにて表示されるようになりました。

また、近日中に、会員情報変更のための連絡フォームと研究部会専用ページを実装する予定です。ホームページについてお気づきの点がありましたら、トップページ左側の「お問い合わせ」からお気軽にご連絡頂ければ幸いです。

6. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局
須永 誠（東京都社会福祉協議会）

1. 学会費納入方ご依頼

ニューズレター本号に同封して、本学会 2016 年度会費が納入されていない会員には、再度「学会費等納入依頼文」を同封いたしました。

また、昨年 12 月 9 日開催の理事会で入会が承認された新規会員には、「入会承認書」と、「学会費等納入依頼文」を同封しております。

納入漏れの無きようご協力をお願いします。

2. メール不達会員へのご連絡

昨年秋以降、学会大会案内等のメール送信に際し、「不達」になった会員には、ご連絡文を同封しております。

学会事務局（E-mail : info@jissi.jp）まで、アドレスをご一報ください。

■ 会員加入状況（2016年12月9日現在）

正会員 103名 / 学生会員 13名 / 名誉会員 1名 / 計117名

（編集後記）

理事の皆様のご協力のおかげで、本年度3号のニューズレターをお届けすることができました。諸事情により今号では「研究・実践企画奨励制度」について掲載ができなかったことから、紙数が少なくなっています。これについては、次号にお知らせする予定です。

この冬は寒くなるとの長期予報がでていましたが、盛岡は例年より雪が少ない状況が続いています。とはいえ寒さ本番です。皆様、それぞれにご自愛ください。

文責 日本福祉介護情報学会理事・ニューズレター編集委員会
小川 晃子（岩手県立大学）